



2003年07月31日

## グッドバイ ビートル！(最後のフォルクスワーゲン ビートルラインオフ)

今週水曜日(7月30日)、最後のビートルがフォルクスワーゲン デメヒコのプエブラ工場をラインオフしました。同工場では、花の装飾やマリアッチが奏でるメキシコ音楽とともに、2,152万9,464台目のビートルを見送りました。この記念すべき最後のビートルは、大西洋を渡る船旅を経て、ウォルフスブルクに到着、その後、アウトムゼウム(オートミュージアム)に展示される予定です。

メキシコ時間の午前9時5分、ビートルの生産ラインがその稼働を停止し、自動車史にほぼ68年間の長きにわたって綴られてきたサクセス ストーリーに終止符が打たれました。伝説の名車ビートルは、メキシコでは“ヴォチョ”のニックネームで親しまれ、近年は同国のみで製造が行われていました。同モデルは、フォルクスワーゲンを世界的に有名な自動車メーカーへと押し上げるとともに、ドイツ経済の復興と発展の象徴とされていました。

フォルクスワーゲン デメヒコ取締役会長のラインハルト ユングは、最後のビートルのラインオフに際して簡潔なスピーチを行い、メキシコ工場のスタッフに感謝の言葉として、「皆さんは自動車を生産していただけでなく、伝説を作り上げてくれました。その伝説はビートルを旅の友としたすべての人々の心にしっかりと生き続けるでしょう」と語っています。

記念すべき最後のビートルは、最高出力34kWの1.6リッター ガソリン エンジンを搭載するアクエリアス ブルーの「ウルティマ エディション(最終エディション)」です。クローム ストリップのほか、バンパー、ハブキャップ、ミラーにもクロームが与えられ、さらにカラーコーデッド ホイールや、グローブボックス リッドには「ウルティマ エディション」のエンブレム、フロントボンネット上には ウォルフスブルク エンブレムが装着され、最終モデルにふさわしいメイクアップが施されています。

「ウルティマ エディション」は3,000台の限定生産モデルであり、ユングによると、すでに完売状態に達するなど、お客様にも非常に好評です。なお、最後の車両は販売せず、ウォルフスブルクのアウトムゼウムに展示されます。

ビートルは、世界20カ国以上で生産されてきました。ドイツ国内の製造は1978年に終了していますが、それまでに1,620万台以上が製造されました。また、メキシコにおける“ヴォチョ”の生産は、39年間途切れることなく続けられ、最終的には約170万台がラインオフされました。